

特別区全国連携プロジェクト 令和8年度第1回全国連携講演会 を開催しました

特別区長会と奈良県町村会は、相互の魅力を発信しながら多面的な連携・協力を推進し、ともに発展することを目指して、平成30年2月に広域連携協定を締結しました。

締結から10年の節目を前に、それぞれの自治体の魅力を再発見し、新たな関係強化に向けた契機とする取組の一つとして、令和8年8月17日（月）に、対面とオンラインを併用した講演会を開催しました。

特別区長会の吉住会長からの開会挨拶後、第1部として、奈良県町村会の森川裕一会長（明日香村長）より、『世界遺産の連なる奈良から問う、地方自治の未来』～「飛鳥・藤原の宮都」登録を好機に～』をテーマにご講演いただきました。

今年7月、明日香村内にその構成資産19か所のうち、15か所を保有する「飛鳥・藤原の宮都」の世界遺産登録が決定しました。それを踏まえ、森川会長には、同村が世界遺産登録を目指した理由、そして、登録を契機に推進したいことについて、熱く語っていただきました。

同村には、古都保存法に基づく「明日香法」が適用されています。それにより歴史的景観が保全されてきた一方、厳しい開発規制が若年層の人口流出を誘発する要因にもなっていました。そこで、特に若い世代が地域の価値を認識し、誇りを持って住み続けてほしいとの願いを込めて世界遺産登録を目指した、とのお話がありました。

また、同村では、従前から、村全体を一つの博物館と捉える「明日香まるごと博物館」構想のもと、地域をパッケージとして旅行商品化することを目指し、歴史遺産や観光施設の整備、体験・宿泊・飲食機能の充実等について長期的な視点で取り組んできました。世界遺産登録により当構想をさらに推進していくこと、加えて、今回の決定を受けて古都奈良、法隆寺、紀伊山地と連なる奈良県の世界遺産ネットワークが形成されることを好機に、広域観光による新たな魅力を創造したいと考えているとのことのお話もいただきました。

続いて、第2部では、「奈良県町村×特別区が示す新たな連携の可能性」と題して、広域連携協定締結の際にそれぞれの団体の橋渡し役を務めた元・価値総合研究所主席研究員の目黒義和氏をコーディネーターとし、森川会長と吉住会長による対談を行いました。ここでは、広域連携協定締結に至るまでの経過をそれぞれの立場から振り返っていただくとともに、今後の展望として、「特別区と奈良県町村による知の共有」「企業を巻き込んだ連携」「皆が自分の求める環境で幸せに暮らせるよう、様々な地域があることを広く知っていただける機会の提供」等の発言をいただき、お互いに尊重し合えるパートナーとして引き続き連携していきたいとの思いを確認しました。

当日は、会場では40名、オンライン配信では44名の方にご覧いただきました。参加者からは、「全国連携プロジェクトの意義がわかった」「シビックプライドの醸成という世界遺産登録の目的に感銘を受けた」「地域によって課題や状況は異なるが、日本全体で考えた時には共存共栄・相互補完が大切だと改めて感じた」等の声が寄せられました。

講演会の様子は特別区全国連携プロジェクトホームページでご覧いただけますので、是非アクセスしてみてください。

講演会概要

◆開会あいさつ

特別区長会 吉住 健一会長（新宿区長）

◆講演

「世界遺産の連なる奈良から問う、地方自治の未来」～「飛鳥・藤原の宮都」登録を好機に～
奈良県町村会 森川 裕一会長（明日香村長）

◆対談

「奈良県町村×特別区が示す新たな連携の可能性」
奈良県町村会 森川 裕一会長（明日香村長）
特別区長会 吉住 健一会長（新宿区長）
コーディネーター 目黒 義和氏（元価値総合研究所主席研究員）
（特別区長会事務局・特別区協議会事業部）



対談の様子



会長挨拶



会場の様子



奈良県町村会会長講演



特別区全国連携
プロジェクトHP